

2024年8月26日

京都府知事 西脇 隆俊 様

向日町競輪場再整備とアリーナ問題を考える会
代表 中村 隆一

「京都アリーナ」(仮称)整備計画の再検討を求める要望書

平素は京都府民の生活向上にむけたご尽力に敬意を表します。

さて、6月に「京都アリーナ」(仮称)の整備計画にかかる住民説明会が向日市で開催されました。

参加者からはアリーナ整備について交通渋滞や生活環境悪化を懸念する意見、市民への説明や対話を抜きに早々に事業者公募を行ったことに対し「(公募計画は)市民の意見が反映したものか」などの疑問が相次ぎました。

主催者代表(角田文化施設政策監)からは、「周辺地域を含むまちづくりを一緒になってご検討させていただきたい」「事業者に住民の意見を届けたい。(今後説明会は)適宜考えたい」との答弁がありました。こうした経過を受け、当会は6月26日付で5月の事業者公募での事業計画について、「いったん撤回」し、住民要望や意見を踏まえ、見直すよう要望書を提出したところです。

7月4日には、向日市からも「要望書」が提出されました。不十分さはありますが、物集女街道などの周辺道路整備、歩行者空間や駐車場の確保、市民が憩える場所として広場、遊歩道の設置、子どもたちが自由にボール遊びのできるスペースなどを求めています。

しかしながら、貴職のこの間の対応を見ていると、6月住民説明会での答弁内容は何一つ実行されていないのではありませんか。また、計画の撤回見直し要望に対して、西脇知事は「事業を着実に進めたい」「(市民の)不安についてはきちんとお答えしていくということで、事業を丁寧に着実に進めていきたい」と突っぱねる一方、向日市の要望には「市の要望に順次、答えを出し、きめ細かく対応していきたい」(7/6 付、京都新聞)としています。

このように口先では、「きちんと」「丁寧に」「きめ細かく」というものの、地元自治体に対しても、向日市民からの要望に対しても何一つ「きちんと」「丁寧に」「きめ細かく」対応されていないのではありませんか。まさに、事を急ぐあまりの不誠実の極みと言わざるを得ません。

昨今各地のアリーナを調べますと、多くは周辺に公園が整備され、アクセス道路や駐車場もしっかり確保されており、今回のように狭い敷地と狭い道路で、住宅市街地のど真ん中というのは稀です。

「急がば回れ」「二兎追うものは一兎も得ず」という諺がありますが、ここはじっくりと腰を据え、この計画自体の立地的条件に無理がないものかどうかも含め、まず地元住民、自治体との十分な情報提供と話し合いのうえ理解と納得を得て、事を進めることが大切ではないでしょうか。

ついては、下記の通り要望するものです。

記

アリーナ計画については、いったん撤回し、以下の再検討を行うこと。

- 1 アクセス道路と歩道の整備は必須条件であり、府道の整備と駐車場の確保を強力に推進する具体的方策と見通しを明らかにすること。
- 2 子どもたちが自由にボール遊びや球技のできる広場や市民が憩える公園の整備を行うこと。
- 3 あらためて市民説明会、対話の場を設け、丁寧な情報提供と対話を行うこと。